

A-119 老人の食事 (血液中の尿酸の変動と食生活との関係について)
九州女子大学 行実直美 ○滝澤和子

目的 現在我国で痛風の患者は、10万人を越え、(東京大学医学部赤岡家雄先生の説)またその原因も、遺伝によるもの、腎臓の排泄作用が不順なものなど、いろいろなものが私達には、近年の豊富で、しかもアンバランスな食糧摂取から、即ち痛風とは、なんらかの関係のある、高血圧患者、腎機能に支障のある患者を除き、60才以上の原因不明の関節痛の患者について、血液中の尿酸の量を測定し、異常な人のみ選出し食事調査を行った。その結果、いくつかの関係をみいだしたので報告する。

方法 60才以上の外来の患者のうち高尿酸患者20人を選出し、Uric Acid Testを行い、その結果高尿酸とみられる患者に、平日連続3日間の食事調査を行い、年断別、労作別の食糧構成より摂取量を比較し考察した。

結果

- ①患者の平均尿酸量は 6.8mg/dl という過飽和状態の高尿酸値であった。(正常値 $3-6\text{mg/dl}$)
- ②主食については、78%が米飯摂取である。
- ③摂取食品を食品群別に比較検討してみると、穀類、魚介獣鳥鯨肉卵類、の摂取比率が、大きく、その他の食品群において、特に乳乳製品、果実類の摂取が少ない。
- ④摂取比率の高い、動物性蛋白質において調査の結果、ハム、かまぼこ、千切ワサの練製品が、比率が高く、自身魚、乳乳製品等の摂取比率の低い結果であった。